

三重ののりものと食べ物

～企画展「みんなののりもの大集合 ～この夏、三重をのりつくそう～」の中で気づいたこと～

三重県内をつなぐ展示

7月8日(土)の「のりもの」の展示開幕後、多くの気づきがありました。企画展では色々な資料が一堂に会するため、普段できない現物の比較が可能となり、展示解説などで資料に何度も接しているうちに、理解が深まることもよくあることです。

特に、今回の展示は三重県内をつなぐ交通機関にスポットをあて、県内外に分散している資料を大集合させた企画です。県内でも鉄道に関する詳細な展示を過去に行った博物館はありますが、のりもの自体は町と町をつなぐ存在なので地域に限った展示では資料をどうしても生かし切れない部分が出てきます。また、地域の資料が少し離れた別の地域で保管されていたため、あまり知られていなかった例もあります。今回展示した、伊勢市立伊勢図書館所蔵の参宮鉄道櫛田川橋梁（現松阪市・現多気町）、雲出川橋梁（現津市・現松阪市）の写真がまさにそれにあたります。各地のさまざまな資料を合わせることで、その全容が見えたり、さらに大きな文脈で位置づけることが可能となるのです。

私が、特に興味深く思ったのは駅弁など鉄道関連の食の世界でした。

三重県の駅弁のはじまり

はじまりは、東海旅客鉄道（JR東海）のご協力を得て、名古屋のリニア・鉄道館でご提供頂いた資料の中に、戦前の各地の駅弁掛紙を額装した資料があったことです。その中に、亀山のいとう弁当店と、松阪の新竹商店の掛紙が入っていました。これらの店の営業は古く、1907（明治40）年発行の『関西参宮鉄道案内』（伊勢市立伊勢図書館所蔵）の広告ページには、新竹商店は「老伴 越之雪 特約販売 弁当 すし 洋酒 販売」と、いとう弁当店は「旅館料理 并二構内行商」と出ています。

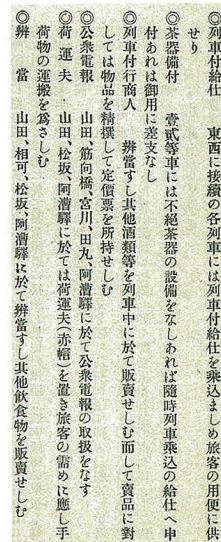
同書では他の駅構内の営業も確認することができます。亀山駅は交通の要衝であるため、他に2軒の店が確認できます。旅館荒木屋は、「亀山駅構内行商 洋食弁当 サンドウキツチ 和洋各酒 煙草 新聞雑誌」と、行商宝来軒は「行商 弁当 寿司 菓子 サンドウイッチ 果物 和洋酒類」と、洋風の商品が特徴

的です。柘植駅（現伊賀市）の中村屋は「旅館 名物芭蕉餅御支度所并二構内行商 弁当 寿司 菓子 果物類 氷ラムネ 冬季ハ蒸すし販売仕候」とあり、豊富な品揃えが確認できます。また、山田（伊勢市）駅の「をがわ」（小川）店は「寿司・弁当・酒・菓子・たばこ類」と、津駅は「やすりや」が「御弁当 御寿司 御茶 ビール 正宗 各種和洋巻煙草 菓子 果物一切」とあります。また、立宮という「参宮鉄道列車付行商人」の「弁当 すし 和洋酒類 煙草類 菓子 果物 雑詰類」の販売が紹介されます。

ここで示したのは、現在の関西本線や参宮線（及び紀勢本線の一部）が国有化される前、関西鉄道、参宮鉄道時代のことですが、両鉄道の食の充実ぶりがうかがえます。さらに、当館蔵の1907年発行『参宮案内』という参宮鉄道の案内冊子を見ると、「列車付給仕 東西に接続の各列車には列車付給仕を乗込しめ旅客の用便に供せり」「茶器備付 壺式等車には不絶茶器の設備をなしあれば随時列車乗込の給仕へ申付あれば御用に差支なし」と大阪名古屋を結ぶ関西鉄道と接続した長距離列車に給仕が乗り込み、一等二等車ではお茶のサービスがあったことがわかります。また、「弁当 山田、相可、松坂、阿漕駅に於て弁当すし其他飲食物を販売せしむる」と



中村屋の駅弁掛紙(戦前)
(中村屋提供)



参宮鉄道の構内・車内サービス
『参宮案内』(当館蔵)



「元祖特選牛肉弁当」で有名な新竹商店の昔の駅弁掛紙
(新竹商店提供)



茶の名産地亀山のいとう弁当店志ぐれ茶漬弁当を食べる

あり、駅弁の存在がわかります。

さらに、駅弁関係の書物（林順信・小林しのぶ『駅弁学講座』集英社新書）をみると、1902（明治35）年「時事新報」掲載の駅弁売りの呼びかけが紹介されていました。桑名は「名産しぐれ蛤の御用はいかがー、桑名名産白魚紅梅煮はいかがー、弁当すしの御用いかがー」、四日市は「パン、マンヂュー、煙草マチー。テングタバコ、御用いかがです」、津は「鮎に弁当はいかがー、新聞に時刻表はいかがー」、亀山は「ビール正宗葡萄酒はよろしゅうー、洋食弁当はよろしー」とのこと。確かに亀山は洋風の品を含み、他の資料と合致します。

さて、古いことだけではなく、今回の展示では、現在ののりものも紹介しましたので、現在の駅弁についても触れる必要がありました。そこで、各所に取材を行ったところ丁寧に対応頂きました。今、三重県内の唯一の「駅弁」松阪駅の新竹商店さんからは、昔の掛紙の資料や現在の名物弁当などの包装をご提供頂きました。また、亀山駅前で現在も志ぐれ茶漬弁当を販売する、いとう弁当店さん（今は構内営業はされていません）にも昔の包装紙をご提供頂

きました。なお、柘植駅前で現在も喫茶店を営む中村屋さん（現在駅弁はされていません）からは、戦前の掛紙と、明治時代の関西鉄道関連の資料、戦前以来の駅弁営業時の書類などをご提供頂き、一部展示させて頂きました。

三重県のお食事

今回はのりもの中心の展示なので、ここで記したような文脈での展示はありません。しかし、さらに追究し、旅の食がどう変化したか示す資料としても活用できそうです。当館はすでに江戸時代の伊勢参りの食の復元といった、一定の研究蓄積も有しています。今回展示できなかったものも含めて関連資料を読み込み、前後の時代の伊勢参りの食と比較することで、旅の食物史としてより大きく展覧できるかもしれません。この展示で得た着想を大切に、今後も調査研究を進めていければと考えています。

(学芸員 太田 光俊)